

アジア共同学位開発プロジェクト

Asia Joint-degree Project

(東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究)

東北大学大学院教育学研究科

本 郷 一 夫

何を創るのか？

東アジアにおける国際的教育指導者養成共同学位プログラムの創設

Step1 共同学位プログラム開発のための組織形成と連携強化

Step2 共同学位プログラムの共同開発研究

Step3 国際的教育指導者養成共同学位プログラムの創設
日本発の東アジア型エラスムス・ムンドゥス・プログラムの創設

エラスムス・ムンドゥス(Erasmus Mundus)は、本来、欧州の高等教育の質を高めることを目的とした、高等教育分野における教育機関の連携と、学生・学者の交流を促進するための計画。アジア型エラスムス・ムンドゥスでは、**(ERASMUS, East-asia Region Action Scheme for the Mobility of University Students)**

なぜ東アジアなのか？

急成長する東アジア 膨張する留学需要

留学需要の急成長が見込まれる東アジア

爆発的な増大が見込まれるアジア地域の留学生 200万人(2010年)から500万人(2025年)に

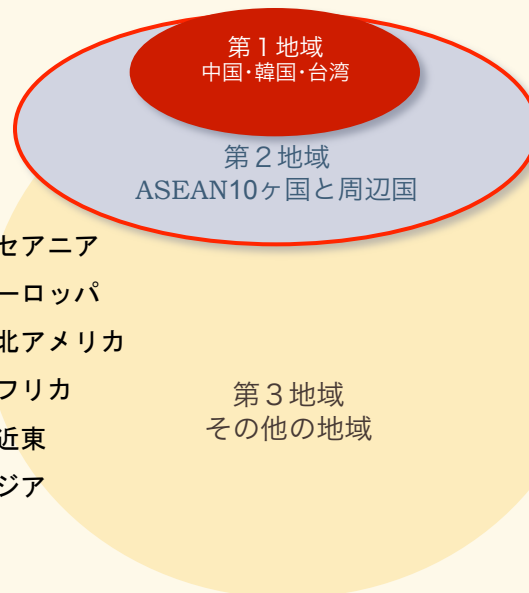
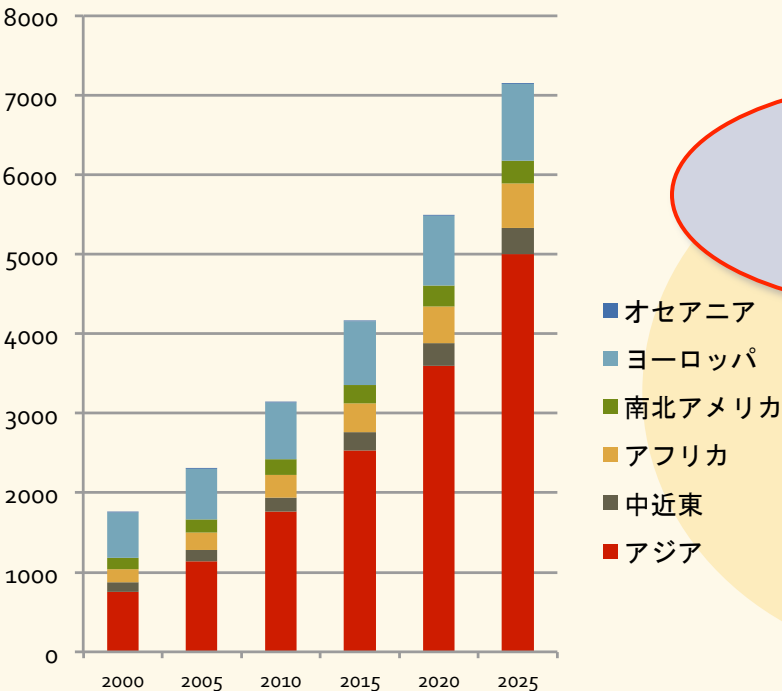
多文化共生社会の創成:新しいアジアの時代に向けて

共通の教育課題と多様性。日本・中国・韓国・台湾などの地域とASEAN10ヶ国 + α

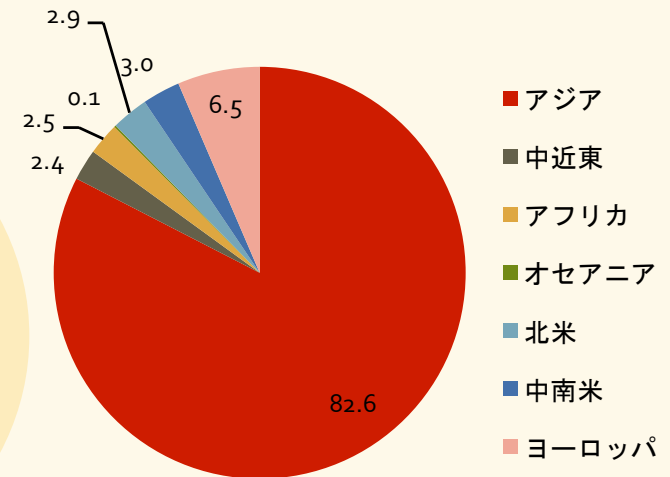
東アジア及びASEAN諸国と連携しながら東アジアの次世代リーダーを養成

東北大学の留学生の8割はアジアから

地域別留学需要の予測 (単位:千人)



東北大学の留学生 出身地域別割合
2009年調査 (単位:%)



どのような国際的教育指導者なのか？

これらの課題に応えるためには

1. 必要とされる人材

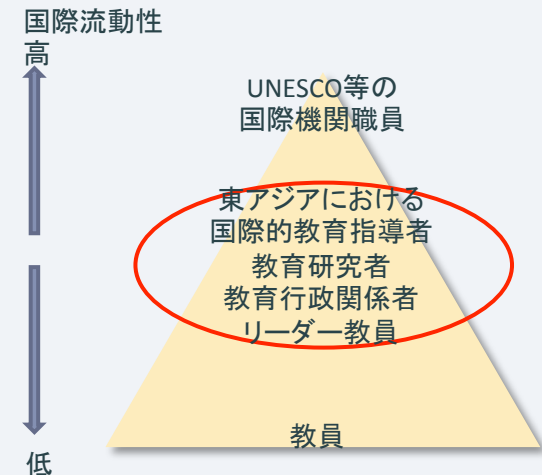
- ・教育研究者：東アジアの教育の現状を的確に分析できる人材
- ・教育行政関係者：東アジアを中心に世界の教育改革を視野に収め、政策立案に携わることのできる人材
- ・リーダー教員：東アジアの教育課題を認識し、教育現場で教育実践を担うことができる人材

2. 必要とされる資質と能力(KASP)

- ・高度な専門的な知識
- ・アジアに対する理解と共感
- ・研究技法と言語「母語＋英語＋ α 」
- ・世界に開かれた人的ネットワークの形成と情報発信

人材育成の現状：2極化

「国際」と「国内」の両面を見据えて、アジアに関心を持つ人材育成が課題

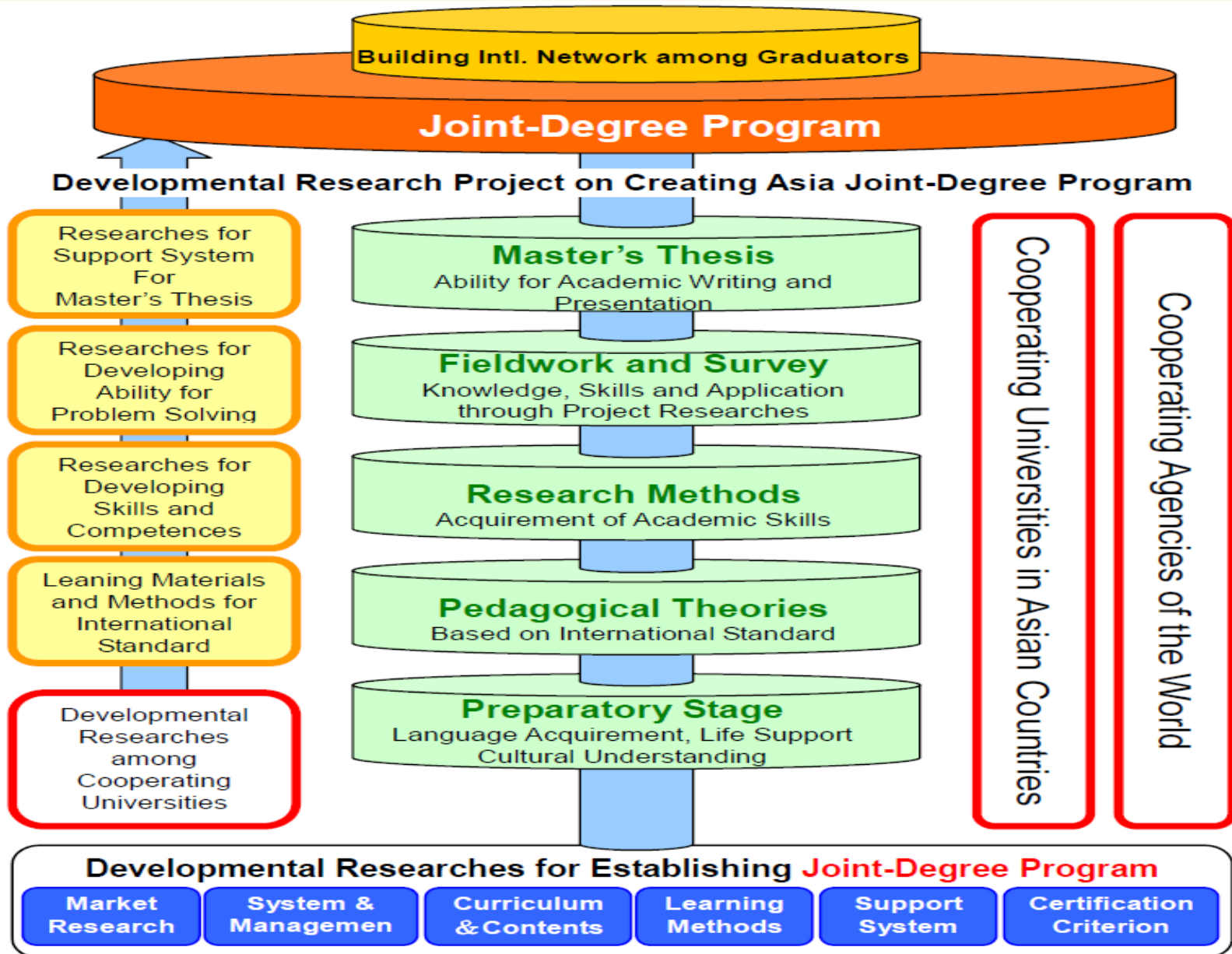


現状では、こうした人材を養成するシステムは皆無

1. 教育行政関係者、リーダー教員は、国内に閉ざされた養成システム
2. 教育研究者、国際機関職員は、基本的に欧米で養成・リクルートされるシステム
 - ・欧米志向が強く、東アジアへの関心は弱い
 - ・教育研究者の場合、東アジアの現実課題に対応する人材養成システムは弱い
 - ・国際機関職員(教育職)のメイン・ストリームは開発教育が主で、東アジアのニーズとミスマッチ
3. 現状では、東アジアの教育課題に応じる国際的教育指導者養成プログラムは皆無

東アジアを拠点として、東アジアの教育をリードする教育研究拠点形成は喫緊の課題

共同学位プログラムとは？



カリキュラム例

例 多文化問題にセンシティブな国際的教育指導者養成

アジアの教育課題としての多文化問題にセンシティブな国際的教育指導者養成

多文化社会には多言語が伴う。言語の背景には民族・宗教の対立抗争、経済格差などの課題が潜む。多文化社会の価値認識、教育政策の企画立案、教育課程のデザインなどの力量を備えた人材育成が不可欠。そのために価値観(キャリアガイダンス)、知識と技能(教育研究の理論と技法)、実践力(フィールドワーク)の修得をコアとするカリキュラム編成が必要。



国際的教育指導者養成に関する海外の動向

国際的教育指導者養成プログラムの萌芽

欧州のエラスムス・ムンドゥス計画

エラスムス・ムンドゥス計画の約150のプログラム中、国際的な教育指導者養成プログラムは2つ。アジアからも多数の学生を受け入れている。現在、博士課程を準備中。しかし、教育のあり方については試行錯誤を重ねている段階。

APRU (環太平洋大学機構)・教育学部長会議

国際的教育指導者養成の構想。環太平洋地域で国境を越える教育指導者養成を検討中。

IALEI (世界主要教育大学連盟)

21世紀型教育指導者養成の構想。国際的な連携により、「知識暗記型」教育から、「スキル型」教育への転換を導く教育指導者養成を提唱。構想の実現はこれから。



国際的教育指導者養成は、緒についたばかりで未開拓分野

共同学位開発の構想

国際水準のアウトカムの質保証

連携大学との協議を通して、大学院教育の質を保証し、質の高い教育指導者を養成する

- 単位認定基準の明確化
- タームペーパー・修士論文の質の共同管理・質保証
- ポートフォリオによる学習歴の管理

研究・教育交流の深化

研究者交流: 研究上の交流に加えて、教育上の交流

- 共同学位プログラムの共同開発により研究者のネットワークが深化する

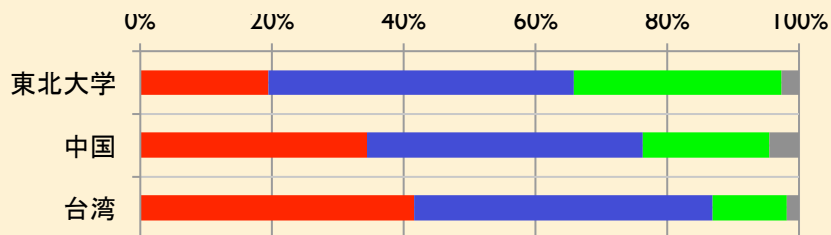
学生交流: 日本人学生の意識変革

- アジア諸国の学生との共同の学びを通して、世界に目を向ける次世代リーダーを育てる

ネットワーク形成: 国境を越えた人的ネットワークの構築

- 人的ネットワークを形成するには、単位互換や短期留学よりも、共同学位が有効

この共同学位プログラムに参加したいと思いますか？



■ 大いにそう思う ■ そう思う ■ ややそう思う ■ そう思わない

調査数 東北大学153 中国(6大学)427 台湾(2大学)152

もしこのプログラムがあったら参加を本気で考えると思います。もはや日本は日本独力で生き残ってはいけな時代に入ったと思います。アジアで学び、広い視野を得る必要があると思います。

(東北大学教育学部・女子)

自分の専門がこのようなプログラムと相性が良いのかに疑問があるので今ひとつ、ピンとは来ませんでした。しかし、異なる環境で新しい視点を身に付けることは、どんな専門にも有意義だと感じて評価しました。

(東北大学大学院文学研究科・女子)

本プロジェクトにおける研究拠点の構成

教育学研究科長

教育学研究科教授会

事業実施代表者
(兼 教育ネットワークセンター長) 1名

プロジェクト全体会議
18名

プロジェクト推進会議
8名

専任教員 2名
外国人客員教員 2名～4名
教育研究支援者 2名～3名
事務補佐員 1名

人間形成論

教育政策科学

成人継続教育論

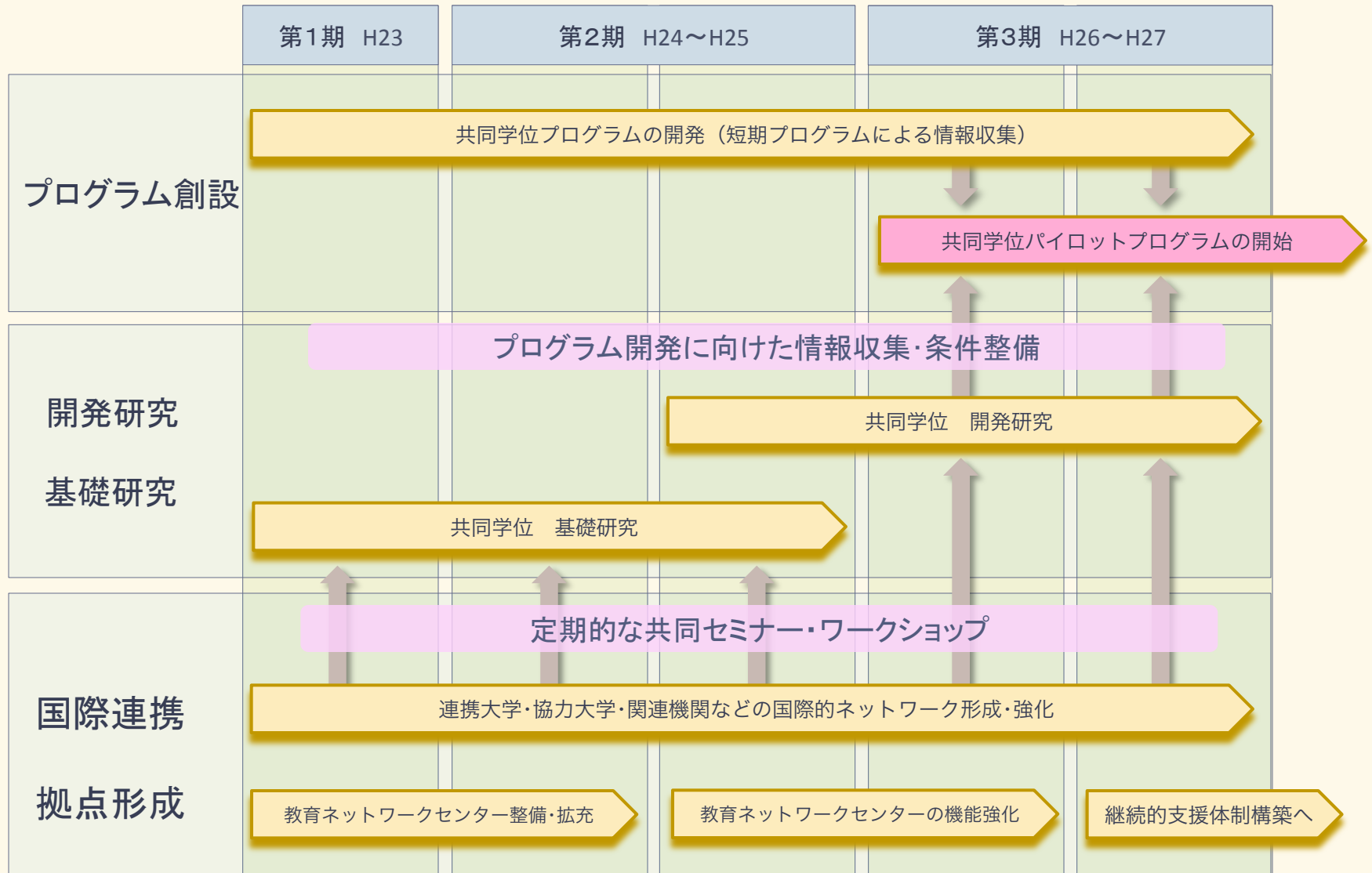
総合教育科学専攻・教育設計評価専攻6講座

教授学習科学

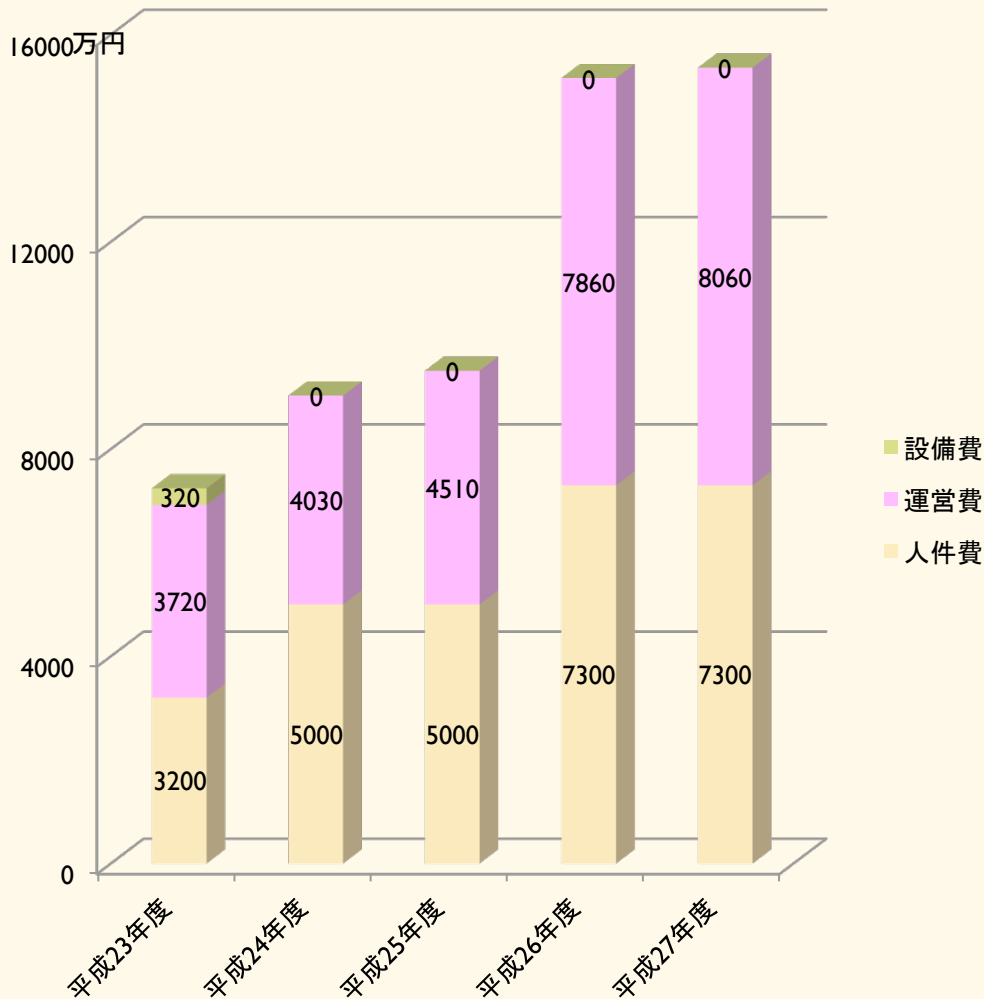
人間発達臨床科学

教育設計評価

本事業の年次計画



人的体制と予算



○プロジェクト全体会議
教員18名より構成

○プロジェクト推進会議
教員8名より構成

年 度	23	24	25	26	27
専任教員	2	2	2	2	2
客員教員	2	2	2	4	4
教育研究 支援者	2	2	2	3	3
事務補佐 員	1	1	1	1	1

総額 5億6300万円

事業目的達成のための研究課題

共同学位プログラム創設を目指した基礎研究

複数国・複数大学で共同学位を出す先行事例の調査研究

- 1 東アジア域内の調査研究
- 2 EU域内での調査研究
- 3 日本国内での調査研究

東アジアの諸大学と連携した共同学位に関する共同調査研究

- 1 共同学位創設を前提とした共同調査研究:制度研究

共同学位プログラムの共同開発研究

連携大学・関連機関との共同学位教育プログラム創設に向けた開発研究

- 1 教育目標・教育内容の摺り合わせ
- 2 フィールドワークの開発
- 3 単位認定、授業評価基準、学位審査基準の共同開発=アウトカムの質保証
- 4 言語教育支援プログラム、アカデミックライティング等のサポート・システムの開発研究
- 5 デジタルコンテンツの開発

パイロットプログラム

短期プログラムの実施

- 1 学生の派遣・受入を通じたデータ収集

条件の整った段階で共同学位プログラムを試行

- 1 共同教育プログラムを実施しながら、プログラムの評価及び改善を実施する

今年度、これまでの取り組み

- プロジェクト会議： 全体会議： 3回
プロジェクト推進会議： 5回
プロジェクト専任教員選考委員会
- 外国調査： オーストリア(ACA Annual Conference 2011)5月22日～24日
韓国高麗大学、ソウル国立大学の訪問と打ち合わせ 6月8日～12日
- 国内調査班： 資料収集と検討会
国内の大学への訪問調査の計画
- 国際連携事業： 7月16日発足記念シンポジウム
12月に連携大学との国際シンポジウムを開催予定
- 部局間協定： 7月に高麗大学教育学部との部局間協定の締結
- 広報： 8月にニューズレターを発行予定

予想される研究成果の波及効果

共同学位プログラム開発研究拠点形成による
人的交流の促進・深化・ネットワーク形成

共同学位プログラムによる国際的教育指導者の組織的養成の開始
日本発の東アジア型エラスムス・ムンドゥス計画の実行

日本の高等教育機関の国際的魅力的向上

共同学位創設・運営のノウハウの他研究領域への転移